

透析患者におけるアルブミン使用有無での出納バランスと予後についての研究

1. 研究の対象

- ・ 2012 年から心臓手術において人工心肺症例を使用した症例、および術中に透析を施行した患者さまを対象に調査を行うこととします。
- ・ 大血管症例を除く全ての心臓手術を対象とします。

2. 研究目的・方法

目的：当院では術中に透析を施行することによって、次の日の抗凝固薬を使った透析を回避し出血のリスクを減らしています。しかしながら透析患者さまは栄養状態が不良のことも多く、アルブミンという栄養の値が低いことが多いのが特徴です。また常に体外循環である透析を週 2～3 回と施行しているため動脈硬化や血管内を守るグリコカリックスという糖たんぱく質が損傷しており血管内血栓の抑制不良や血管の透過性亢進に伴い間質（体の中）への体液貯留を引き起こすとされています。アルブミンはこのグリコカリックスと結合し上記で述べた合併症を防ぐと言われており、人工心肺においても始まる前に投与すれば水分バランスの減少、また手術後の回復が早いことが予想されます。

方法：投与されている患者さまとしていない患者さまと比較検討します。投与においては麻酔科医と相談して決めています。今回は過去の症例を後ろ向きに調査させていただきます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテから得られる情報、病歴、治療歴、血液検査、心臓超音波検査 など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：臨床工学科 中島 康佑